## 学長、新年の抱負を語る

平成七年は危機管理が叫ばれた年であった。今年はどのような年になるであろうか？

仕事始めの一月四日、各部局長をはじめ、各部長、事務長、本部職員など約二百名が本部第一会議室に参集し、午前十時から二十分間にわたり学長の年頭の挨拶があった。

要旨は次のとおり。

「平成八年の年頭にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

昨年は、本学にとってもたいへん良い年で、二十三年にわたる統合移転が、皆様のお力によりようやく完了いたしました。

また、昨年のわが大学の整備について申し上げれば、たくさんの建物が整備されることになり、十九の建物（校舎を含めて）が立ち上がりました。

東広島キャンパスでは、放射光研究関係の建物・設備、ベンチャー・ビジネス・ラボラトリー、地域共同研究センターなど十一の校舎が立ち上がりました。霞キャンパスでは保健学科の建物をはじめMRIなど三つの建物が、附属学校では二つの校舎が立ち上がりました。

先般予算の内示もありましたが、放射光科学研究センターやナノデバイス・システム研究センターの新設、医学部では大学院医学系研究科保健学専攻修士課程や救急医学講座の増設が認められ、学校教育学部では教育実践総合センターが、ほかに留学生センターの整備が認められました。

いよいよ、真の総合大学としての第一歩を踏み出すことになりますが、学部教育の充実に関しても、教養的教育改革実施要綱が評議会で認められると、平成九年度からの多様な学生に対して教養的教育の成案は機能すると思っております。

なお、大学院の整備は非常に大切で、皆さんとともに整備されつつある広島大学を見守りたいと思います。

広島大学のために知恵を使い、汗を流し、りっぱな大学にしたい。そのためには、皆様のご協力が必要です。広島大学の五つの理念もできあがりました。その理念のもとに、皆様とともに新たな広島大学をつくっていこうではありませんか」。

倒壊建物から負傷者を救出する訓練

## 旧学部棟解体工事始まる

一月十日、粉雪が時折舞うなど一段と寒さが厳しさを増すなか、東千田キャンパスの学生集会所の解体工事が始まった。

この建物は、当初附属中・高等学校が使っていたが、その後、本部建物、学生集会所として使われてきたもので、この建物の解体工事を皮切りに、二月十日から本格的な解体工事が始まる。解体工事は三期に分けて行われ、五月末日までには文学部、法・経済学部、理学部（本館を除く）、図書館が、平成八年度は総合科学部、体育館が、平成九年度に事務局、教育学部、総合情報処理センターの建物の解体工事が予定されている。

なお、跡地は、来年秋に開催予定の「全国都市緑化ひろしまフェア」のメーン会場として整備される予定。

またたく間に取り壊される学生集会所

## 事故防止へ県警も協力

相変わらず若者の事故が跡を絶たないが、構内通行証交付の条件となっている安全講習会が、去る一月三十日(火)に教育学部大講義室で開催された。

当日は五百人が詰めかけ、会場に入りきれない学生は、視聴覚教室で受講した。

講習会に先立ち、三十分程度県警西条警察署交通課長溝上建崇氏自ら事故防止について講演し、安全運転を呼びかけた。

## 学長の紫綬褒章受章を祝う

去る十二月十九日、原田学長の紫綬褒章受章を記念して、部局長連絡会議、評議会、事務連絡協議会の構成員による祝賀会が、広島市内のホテルで開催された。

原田学長は、祝賀会の挨拶の中で「石の上にも三年というが、自分は、大学を卒業して以来三十数年、日々同じペースで好きな仕事をしてきた。この結果、皆様方のお力を得て、事が成就し、今日がある」と感謝の念を述べた。

## 学長、友好の架け橋として絵画を贈呈

多趣味で知られる原田学長は、このほど佐竹製作所に、ご母堂の五十号の力作を贈呈した。

趣味は人生を彩り、人生を二倍楽しくさせると言われているが、学長は、「今年八十九歳になる私の義母（昭和三年東京女子美術出身）が毎日絵を楽しんで描いており、この間描きためた作品が数百点にのぼり、何かお役に立てればと考えていたところ、是非にというお話があり、それではと思い贈呈することになった」と語っており、一点の絵画が友好の架け橋となった。

贈呈式は、十二月二十一日に佐竹製作所で行われた。

贈呈式

祝賀会々場で
（壇上の学長夫妻と乾杯の音頭をとる今田事務局長）